

新年に寄せて

12.01.2025 例会 金古 尚

新しい年になりました。今年が良い一年になりますよう。

そこで今回は少し早いのですが、春を感じさせる曲、また新年に因んだ音楽を考えてみました。

マーラー：花の章 5'53

ボストン交響楽団 小澤征爾 DGG 03.1977 (ボストン)

マーラーは交響曲第1番の構想として5楽章のものを考えていました。この「花の章」は第1楽章と第2楽章の間に置かれていましたが、のちに伝統的な4楽章のスタイルに考え直した時にこの楽章を削除しました。トランペットのソロが印象的な静かで美しい作品です。

ハイドン：オラトリオ「四季」から春

第1曲 序奏とレチタティーヴォ (6'12) 第2曲 田舎の人々の合唱 (3'44)

グンドゥラ・ヤノウイツ ヴェルナー・ホルウェーグ ヴァルター・ベリー

ベルリン・ドイツ・オペラ合唱団

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

ヘルベルト・フォン・カラヤン

EMI 11.1972 (ベルリン)

ウィーンでベートーヴェンの交響曲第1番が初演された頃、ハイドンは病の中で「四季」の作曲に取り組んでいました。この作品は三人の農夫たちが登場し、大自然を表すオーケストラと合唱で四季の移ろいを表現します。今回は5曲からなる「春」の部分の最初の2曲を聴きます。劇的な序奏で冬から春への移行を描き、三人の農夫たちのレスタティーヴォ（朗唱、語り歌）があり、続いて春を喜ぶ村人たちの歌声（合唱）が聞こえてきます。

第1曲はシモン（バス）が「見よ、厳しい冬が逃げていく様を」と歌い出します。第2曲は合唱が「来れ、穏やかな春よ」と歌いだします。

ヨハン・シュトラウス：ウィーンの森の物語 (12'03)

ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団 ロリン・マゼール DG 1883

今年、アニバーサリーの作曲家が何人かいます。生誕200年を迎えたのがヨハン・シュトラウス。ここでは「ウィーンの森の物語」を聴いてみます。ヨハン・シュトラウスの代表的なワルツでかなり長い序奏があり5つのワルツが続きます。民族楽器チターが加わります。

ディーリアス： 歌劇「村のロメオとジュリエット」 から「楽園への道」 9'31
ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団 クリストファー・シーマン RPO 08.1994

イギリスの音楽を一つ聴いてみます。ディーリアスはイングランドの商人の家庭に生まれ、アメリカで黒人音楽に感化され作曲の道に進みます。黒人音楽の他にワーグナー、親交のあったグリークの音楽との影響があったといわれます。「楽園への道」は彼のオペラ「村のロメオとジュリエット」の間奏曲として書かれました。このオペラはディーリアスの6つのオペラのうち、4つ目にあたります。土地の裁判で争っていた2つの農家の息子と娘をめぐるお話です。この2人の悲劇のオペラの中の間奏曲になります。

ドヴォルジャーク：交響曲第9番ホ短調 新世界より から第4楽章 (10'58)
ニューヨーク・フィルハーモニック レナード・バーンスタイン SONY 1962

ドヴォルジャークはニューヨークに設立されたナショナル音楽院の院長に就任するためアメリカに渡ります。彼は黒人霊歌などから新たな刺激を受けアメリカでのインスピレーションと祖国への望郷の念がこの作品に現れています。第4楽章は爆走するような開始部をもち、壮大なクライマックスを築きながら消え入るように終わります。日本では各オーケストラのニューイヤー・コンサートの定番になっています。